

《 クラス別自己チェック評価 まとめ 》

認定こども園 白銀台保育園

令和4年度の評価点

【つくし組(0歳児)】

- ・ スキンシップをとり、子ども達が安心して過ごせるように職員間のコミュニケーションをとりながら活動がスムーズにできるように心掛けた。
- ・ 個々の特性を理解し、その子に合わせた対応がとれた。主スムーズに進めるよう努めた。
- ・ 個々に進める離乳食では、園・家庭・栄養士と連携をとりながら進めることができた。
- ・ クラスでのミーティングを頻繁に行い、互いに意見交換をしながら、子ども一人ひとりの情報や対応が共有できた。
- ・ 子どもたちの心に寄り添いながら、言葉かけをするように心掛けた。
- ・ 遊具等の消毒をさらに徹底し、安全に元気で過ごせる環境を整えることができた。細かく担当を決めたことでよりスムーズに進めた。
- ・ 複数担任を生かし、周りにも声をかけ協力して保育でき、余裕を持って子どもに接する事ができた。
- ・ 検温や午睡チェック忘れがないように、声を掛け合った。

次年度への課題・改善点

- ・ 常に連絡を徹底し、伝達ミスがないようにする。職員間で情報を共有する、
- ・ 保護者とのコミュニケーションを密にし、できるだけ保護者の気持ちに寄り添うよう心掛ける。
- ・ 室内遊びの幅を広げ、子ども達をさらに楽しませる工夫が必要と感じた。
- ・ 戸外でも室内でも発達に合わせたいろいろな遊びの工夫をしていく。また、のびのびと戸外遊びができるように見守る。
- ・ 一人ひとり個々の成長に合わせた対応、接し方を心掛けていく。
- ・ コーナー遊びでは、メリハリのある遊びの工夫をする。
- ・ 毎日の遊具消毒の徹底に努める。
- ・ 保育者自身も健康管理に努める。(無理してかえって迷惑を掛ける場合もある)
- ・ 子ども達の気持ちを汲み取り、共感し発達状況にあわせ働きかけるように努める。
- ・ 職員同士、連携をとりながらこどもの状況をその都度声を掛け合うようにする。
- ・ こまめにミーティングを行い、職員で話し合いながら保育を進めてきたので、これからも続けていきたい。

令和4年度の評価点

【つくし組(1歳児)】

- ・ 子ども達がやろうとしていることや言葉を受け止めるように心掛けた。
 - ・ 良い事は十分に誉め、子どものやる気につなげられるような言葉掛けを心掛けるようにした。
- 信頼関係を築き安心して過ごせるよう、スキンシップをとることを意識して保育した。
- ・ お部屋の遊具等の消毒・換気を徹底し感染予防に努めた。
 - ・ 健康状態を担当それぞれが把握し、保護者への協力を求めながら感染症対策に取り組んだ。
 - ・ 一人ひとりの表情や登園時の状況を見て、スキンシップをとったり、落ち着いて過ごせるように配慮した。特に、怒っている時や泣いている時は落ち着くまで待ってみたり、優しく話を聞くなど個々に合わせた対応に心掛けた。
 - ・ 行事等、早めにクラスで話し合い早めに準備するように心掛けた。
 - ・ 子ども達の成長した部分、また難しかった事などを伝え合い一人ひとりの理解につなげた。
 - ・ コロナ禍の状況で出勤できない職員もいたが、互いに協力しあいながら保育に支障をきたすことなく協力し合えた。

次年度への課題・改善点

- ・ 子どもに寄り添い、子どもへの言葉かけを大切にしていく。
- ・ 職員間で積極的にコミュニケーションをとる。伝え漏れがないようメモ等をとる。
- ・ 三ーティンを細めに行い、いろいろな事を相談しながら、良い保育につなげていく。
- ・ かみつきや気になる行動、保護者からの要望について、その都度情報を共有する。
- ・ 引き続きコロナ感染予防対策を徹底し、遊具消毒やこまめな換気に気を配る。
- ・ 簡単な集団遊びを積極的に取り入れる。
- ・ 保護者とのコミュニケーションを積極的にとるようにする。
- ・ 先を見通した計画を一年の始めにたてて取り組めるように努める
- ・ **積極的に勉強し、自分の引き出しを増やしていきたい。**
- ・ 大きなトラブルやケガにつながる前にその都度環境を整えていく。

令和4年度の評価点

【 すみれ組(2歳児) 】

- ・ 月齢差がはっきりしていて、一人ひとりの月齢にあわせた対応に苦心する事が多かった。
- ・ 担任間で子どもの育ちについて、常に話し合い報告・連絡・相談をしながら、共通認識しながら保育をすることができた。
- ・ コロナ禍で休園になることがあり、計画通りに保育ができなかった。しかし、その中でも子ども達を楽しませる保育になるようにこころ掛けた。
- ・ 大きな事故やけがもなく保育ができて良かった。
- ・ 保護者とのコミュニケーションまた信頼関係を築く難しさを感じた。連絡帳でのやり取りも大切だが、大事なことは直接口頭で伝えるべきだと感じた。
- ・ コロナウィルス感染予防対策として、遊具消毒・換気を徹底した。
- ・ コロナにより、行動範囲が限られてしまい、活動内容の幅も狭くなってしまった。
- ・ 普段の保育の様子を撮影し、玄関に掲示し保護者にみってもらうように配慮した。

次年度への課題・改善点

- ・ 保護者の気持ちに寄り添い、理解し信頼関係を築く。そして、一緒に子育てしているという気持ちで共通理解を図るようにする。
- ・ 個々の健康面や情緒面を把握して常に話し合い、一人ひとりに合わせた丁寧な保育を目指し成長を見守る。
- ・ 一人ひとりの子の思いを受け止めるためにも、職員間で共通理解をしていくことが大切だと感じた。常に話し合いの場を設ける。
- ・ 気になる子に対しての関わり方に悩んでしまった。クラス担任だけでなく、園全体として取り上げ良い方法やアドバイスなどを確認し合えるように取り組む。
- ・ 進級に向けて、常に以上児職員との連携を密にして、スムーズに進級できるように努める。
- ・ 自分でできる、自分でやろうとする気持ちを大事に受け止め、見守り・励まし必要に応じて援助していく。
- ・ コロナも落ち着いて活動内容の幅を広げて、子ども達の意欲を高めていく努力をする。
- ・ 引き続き、遊具の消毒・こまめな換気に努める。

令和4年度の評価点

【 以上児組（3・4・5歳児） 】

- ・ 就学に向けての話合いを子ども達と一緒に行う事で、小学校への期待を高め、何事にもやる気を持って取り組むことができた。
- ・ 子ども・保護者とのコミュニケーションを大切にしながら、信頼関係を築くことができた。
- ・ 以上児3クラスの担任同士が十分に意見交換・情報交換して取り組むことができた。また、行事に向けて、先を見越した計画をたてて取り組むように努めた。
- ・ 登降園時の視診の徹底、こども一人ひとりに合わせた援助が行えるように努めた。
- ・ 一人ひとりとじっくり向き合うことができず、目立つ子にばかりに焦点がいったしまった。
- ・ お当番活動を通して、協力し合いながらやり遂げる楽しさを知らせることができた。自然に一人ひとりに責任感が身に付いた。
- ・ コロナ禍でいろんな事を我慢しながらも、実行できることはみんなで力を合わせて取り組んだ。
- ・ 落ち着いた環境の中で子ども達と向き合い、のびのびと活動出来た。
- ・ 気になる子の保護者に対し、送迎時に園での様子、家庭での様子を伝え合い、少しでも理解してもらえるように努力した。
- ・ コロナ対策のため、玄関での受け入れだったが、なるべく保護者とのコミュニケーションを持ち信頼関係を築くよう努力した。
- ・ 各クラスともそれぞれ生活しやすい環境設定がされていた。
- ・ 行事では、早めに準備を行うことで、余裕をもって取り組むことができ、子ども達も楽しく自信をもって発表することができた。
- ・ コロナ対策として、手洗いうがい・消毒をより徹底することで、感染予防がしっかりとできた。マスクの着用も徹底した。
- ・ 行事や製作物等の進め方や分担、話し合いがその都度行い、スムーズに進めることができた。
- ・ はじめて以上児組の仲間入りをし、いろいろな行事に参加するうちに以上児としての流れや自覚が少しずつ身についた。
- ・ 報連相が大事であると再確認した。

次年度への課題・改善点

- ・ 日々の保育に追われてしまう日もあり、丁寧に一人ひとりの対応が行えないこともあったので、見通しや余裕を持って保育するようにしていく。
- ・ 保護者と家庭と園の様子を詳しく話し合い、子どもの成長や課題を共通認識していく。
- ・ 感染症対策でいろいろなことが制限される中で遊びへの工夫が足りなかった。
- ・ 個々を大切に個々の満足のいく保育を心掛ける。目立たない子にもしっかりと目をむけその子の良さを引き出していけるようにしたい。また、気になる子への友達への関わり方を考えていきたい。
- ・ 目の行き届かない所でちょっとした怪我が起こりえる事を予想していく。また、少しでも未然に防げるようにしていきたい。
- ・ 一人ひとりの子どもの発達の様子や気持ちの受け止めを共感しながら、焦らずに見守る。気持ちに余裕を持つことが必要と感じた。
- ・ コロナ禍の中で保護者とのコミュニケーションが不足していた。連絡ノートをもっと活用するように心掛ける。
- ・ コーナー遊びの設定に工夫が足りなかった。コロナ禍はまだ続いている状態なので、その中でも様々な経験が出来る場を設けていきたい。
- ・ 気になる子への対応、話し合いを設ける。
- ・ コロナ禍のため異年齢との関わりが持てなかったため、いろいろな活動を通して関わりのお大切さや、一緒に活動することでの喜びを味わわせていきたい。
- ・ 子ども達が意欲をもって活動できるような取り組みを話し合いをする。そして、一人ひとりの個性を伸ばしていけるように努力する。また、子ども達自身が発見する力や考える力を引き出していきたい。
- ・ 職員間での申し送り、引継ぎを丁寧にしていく。報連相をしっかり行う。
- ・ コロナも緩和され、これから意欲をもっていろいろなことにチャレンジできる環境作りを行っていきたい。
- ・ 子ども一人ひとりと向き合い、子どもの心に寄り添い、子どもへの言葉かけを大切にする。
- ・ 個々にならずに、協力しながら対応したり対処したりできる職員間での話し合いを頻繁に設け、コミュニケーションをとるように心掛ける事を続けていく。そして、同じ保育観をもって保育に携わるようにする。

令和4年度の評価点

【 子育て支援（一時預かり保育・休日保育）】

- ・ コロナの感染拡大で休園を余儀なくされたこともあり、一時預かりを受け入れることがなかなか難しい状況であった。受け入れる日が決まっても、急遽休園となることもあり、断わる事もあった。また、受け入れる時は、園でのコロナの状況を保護者に伝え、きちんと了解を得てから受け入れるようにした。
- ・ 休日保育も同様で、休園のため休日保育ができない状況があった。そのため、今年度は、他園からの受け入れは行われなかった。在園児のみの受け入れだけだったので、スムーズではあったが、体調には、十分に気を付けるように心掛けた。職員間の申し送りを密にし、情報交換しながら休日保育に携わった。

次年度への課題・改善点

- ・ 一時預かり・休日保育とも、コロナ感染が落ち着いてきているので、以前のように保護者のニーズに対応しながら受け入れていく。引き続き感染対策はしっかりと行う。

令和4年度の評価点

【 給食 】

- ・ 給食を作るにあたって声を掛け合い、確認し合いながらスムーズに作業できた。
- ・ 離乳食の献立作成、進め方について担当の職員としっかり話し合い進めることができ、離乳食や除去食等については、伝達する事など分かるようにメモするなど意識して、努めた。
- ・ 献立作成には、旬のもの、組み合わせ、栄養価を考え作ることができた。おやつも楽しみにしてもらえるような物を考え手作りに試みた。
- ・ 昨年同様、食育集会では、時期や季節に合わせてテーマを決めてマナーや食に関して伝えることができた。
- ・ コロナ対策を徹底し、さらに清掃・整理・整頓を定期的に時間をみながらできた。

次年度への課題・改善点

- ・ 離乳食の進め方をもっと勉強してアップデートしていきたい。
- ・ 気を緩めずに衛生面をしっかりと第一に考える。(食中毒・コロナ対策)
- ・ 昨年同様に、食育集会について、子ども達の状況や興味、関心のあることなど情報収集しながらテーマに盛り込むようにしていきたい。もっと興味・関心を持ってもらいたい。
- ・ コロナの影響もあり、子ども達の様子を見たり、触れ合ったりすることが出来なかったのが残念だった。ぜひ、今年度は、給食の様子を見に行き、子ども達と食を通してふれあいを持てるように心掛ける。
- ・ 自分自身の体調管理に気を付ける。
- ・ コロナ禍の給食の提供にあたり、いろいろな対策方法など経験において身に付いたものを次年度に活かしていきたい。
- ・ 子どもの目線で楽しめる給食・行事作りに努めていきたい。また、食の大切さを伝えていきたい。
- ・ 離乳食は、担任の職員と話し合いを密にしながら、これからも進めていく。いろいろな変化が生じた時は、その都度話し合い良い解決方法を見つけ出す努力をする。
- ・ 職員間で声を掛け合い、伝達漏れがないようにする。